

## Interview



生後1カ月間  
夫婦で育児に専念。  
夫婦の役割を考えて子どもと接する  
ようにしています

景山史治さん  
結羽ちゃん(1歳7カ月)

出産を目前に控えたタイミングで東京から転居してきた景山さん夫婦は、奥さんの実家の隣に家を建てました。「出産から新しい仕事を始めるまでの1カ月間、育児に専念できました。それでも育児は大変で、多くを担ってくれる妻と、サポートしてくれる両親のありがたみを実感しています」。

毎日結羽ちゃんとお風呂に入り、パジャパジャとお湯をかけあうのが楽しみだという。史治さん。奥さんが復職に向けての勉強が必要な時も、時間を多く確保できるように史治さんが外に連れ出すことで、それもまた子育ての楽しみ方の一つのことです。「家庭では、妻と子ども、どちらの気持ちもケアできるように、2人のやりとりに気を配るようにしています。妻がしつこく叱ったら私がサポートに回る、といったように夫婦の役割を意識しながら関わるようにしています」。

## Interview



限られた時間の中で少しでも多く一緒にいられるように意識しています

矢吹拓真さん  
凜音くん(1歳7カ月)

仕事の休みが不定期な矢吹さんは、「休みの日は自分子どもを連れ出して面倒を見るようにしています。よく行くのはお店や子どもを遊ばせる施設が中心ですね」と話します。これも日ごろから育児に専念してくれている奥さんへの配慮のようです。二世帯住宅で同居している母が育児に積極的に関わってくれることもあり、とても助かっているそう。

「休みが週1日で仕事の帰りが夜9時を過ぎることもあるので、少しでも子どもとの時間を大切にしています。寝るときに私の上に息子がのっけて遊ぶのが日課になっているのですが、疲れていても全然苦になりません」。最近言葉が伝わるようになってきたり、でんぐりがえしができるようになったり成長を感じる機会も多く、「できることが増えていくのが嬉しいです」と子育てに充実感を感じているようでした。

# Defend

# 守る

子育ては、担い手であるパパとママだけでなく、家族・職場・地域など、社会全体のサポートが必要不可欠。子ども自身や子育てしやすい環境を「守る」ためにできることを考えます。



## 夫婦の形

夫婦間で思いやり 充実感に

子育てに一番多く関わるのは親であるパパとママ。特に育児期は授乳やおむつ交換、寝かしつけなど、つきっきりにならなければいけません。この大変さは、親になれば誰でも経験することです。それでも夫婦で分かち合えば軽くなるだけでなく、子どもをとおして多くのことを学ぶ機会を共有することができます。これが子育ての充実感や楽しみにつながるのではないのでしょうか。

しかし、実際には育児において母親にしか担えない役割もあり、仕事で懸命に家計を支える父親への理解も必要。また、1人で抱え込んでしまう母親がいることも事実です。

### 家庭状況に応じた役割分担

各家庭で夫婦の役割もそれぞれ。数多くの家庭を見てきた助産師の熊田さん(3ページ)も「家事や育児に積極的なパパが増えてきた印象」と話していました。こうした夫婦二人三脚で子どもを守る、社会的な意識の高まりも歓迎すべきことです。3人のパパに子どもとの関わり方について話を伺いました。

## Interview



江連亘さん  
咲和ちゃん(5歳)・頼くん(2歳6カ月)

「妻の気持ちを考えて、自分ができることはなるべくやるようにしています」と話すのは、アパートに家族4人で暮らす江連さん。共働きの中、2人を育てる時間の余裕を確保するためには、夫婦の役割分担が重要とのこと。

「例えば、妻が作ってくれた朝食をみんなで食べた後、妻が出動の準備をしている間に私が食器の洗い物をして子どもの身支度をさせ、洗濯機を回して仕事にいきます。それを妻が干してから仕事に行く。そんな流れで状況に応じて効率よく家事・育児がこなせるよう役割分担しています」。

そんなイクメンぶりを発揮する亘さんは、両親が協力しあって家事・育児をやる姿を幼少期から見てきた影響が大きいと言います。「父もまめな人で、そういう父

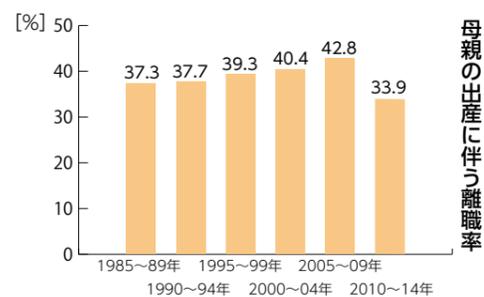


親像が当たり前なんだと思って見えていました。2人で分担して家事を終わらせればみんなでゆっくりとテレビを見ながら遊ぶなど、家族団らんの時間を増やせますからね」と子どもの顔を見てにっこり。しかし、咲和ちゃんが生まれたときは初めての子育てということもあり、どこまで手をかけたらいいのか夫婦で手探りだったそう。「2人の出産を経て育児と家事を頑張る妻の姿を見て『少しでも力になれたら』と思ったのが、今の夫婦の形を考える原点のように感じます」と5年間を振り返りました。

家族の時間を確保するために効率よく夫婦で家事を分担するようにしています

## 仕事と家庭の両立

また、日本人女性の33・9%が妊娠・出産を機に仕事を辞めている一方で、子育てをしていく上で最も不安な理由に「経済的不安」を挙げています。生活していくために働いて家計を支えることは大切。また、充実した人生をおくるために家族と過ごす時間も大切。国においても一億総活躍社会、働き方改革の実現に向けて、さまざまな政策が議論・推進されています。



家庭で過ごす時間を守る 昔に比べると、父親の子育て参加や母親の社会参加などの意識は高まっていますが、「ワークライフバランス」という言葉が指すような仕事と家庭の両立にはまだまだ課題があります。パートタイム労働者を含めた総労働時間は減少傾向であっても、フルタイム男性雇用者の平日1日当たりの労働時間は30年前と比べて1時間ほど増えています。

